

UR 団地内集会所に設置されたコミュニティライブラリー 「わかぼん」の設置後1年間における利用実態

福岡女子大・国際文理 ○若竹 雅宏
日大生産工 広田 直行

1. はじめに

近年、本を媒介とした居場所¹⁾を創ることをきっかけとして人の繋がり生む取り組みが行われている²⁾。代表的なものとしては、2011年に磯井純充氏が提唱し、その後に全国に広まった「まちライブラリー」や2020年に土肥潤也氏の発案により始まった「みんとしよ」が挙げられる。「まちライブラリー」は、いつでもどこでも気軽に誰もが取り組むことができ、「本」を通じて「人」と出会うまちの図書館として、「みんとしよ」は、シェア型の図書館として本を中心に新しいコミュニティをつくることをコンセプトとしている。

この様に本を媒介とするまちづくりが広がる中、本研究では、URの団地内集会所の一部をコミュニティライブラリーとして改修した後に、UR九州支社、UR団地自治会及び福岡女子大学の3者の協働により、『「本」と「アート」によりゆるやかに繋がるコミュニティづくり』を柱として運用を始めた事例を対象に、設置後の約1年間における利用実態について報告する。

2. 研究の方法

2.1 調査の対象

研究の対象は、福岡県福岡市東区にあるUR香椎若葉団地内の集会所（以下、集会所）内に設置されたコミュニティライブラリー「わかぼん」（以下、「わかぼん」）とする。本事例は、UR九州支社において、集会所の一部をコミュニティライブラリーにした初めての事例である。

2.2 調査の方法

本研究では、訪問実態調査とアンケート調査を行っている。本報告では、訪問実態調査について報告する。

訪問実態調査は、集会所及び「わかぼん」の実態を把握するために、利用実態調査と空間把握調査を行なった。

利用実態調査では、来館者数、来館者の属性及び来館者の行動について調査した。空間把握調査では、UR九州支社の担当職員へのヒアリングやUR九州支社より提供のあった平面図な

ど^{注1}と照合しながら、空間構成、家具や備品などの設置状況、床材及び照明などについて調査した。調査は2023年10月から12月に行なった。

2.3 分析データ

本研究で用いる分析データは以下とする。

来館者数と来館者の属性については、それらについて記録している自治会長管理の管理ノート^{注2}のデータを用いる。なお、データは2022年9月から2023年12月までの16か月の期間における開館した日曜日63日、木曜日10日の合計73日のデータを用いる。

来館者の行動については、利用実態調査を行った2023年10月から12月の期間における各月3回ずつの合計9日間におけるデータとする。表1に分析データに用いた年月日を示す。

表1 分析データに用いた年月日

年	月	曜日	日にち				
2022	9月	日曜日	11日	18日	25日		
	10月	日曜日	2日	9日	16日	23日	30日
2023	11月	日曜日	6日	13日	20日	27日	
	12月	日曜日	4日	11日	18日	25日	
2023	1月	日曜日	8日	15日	22日	29日	
	2月	日曜日	5日	12日	19日	26日	
2023	3月	木曜日	16日				
		日曜日	5日	12日	19日	26日	
2023	4月	木曜日	2日	9日	16日	23日	30日
		日曜日	2日	9日	16日	23日	30日
2023	5月	木曜日	20日				
		日曜日	7日	14日	21日	28日	
2023	6月	木曜日	11日				
		日曜日	4日	11日	18日		
2023	7月	木曜日	1日				
		日曜日	2日	9日	16日	23日	30日
2023	8月	木曜日	6日				
		日曜日	6日	13日	20日	27日	31日
2023	9月	木曜日	3日	10日	17日	24日	
		日曜日	3日	10日	17日	24日	
2023	10月	木曜日	1日	8日	15日	22日	29日
		日曜日	5日	12日	19日	26日	
2023	11月	木曜日	3日	10日	17日	24日	
		日曜日	3日	10日	17日	24日	

※※日：利用実態調査を行った日にちを示す

3. 「わかぼん」の空間について

3.1 集会所の室構成

集会所の室構成を表2に示す。集会所の室のうち、住民の活動に関わる主室は集会室と和室集会室の2室である。その他の室には、玄関、ホール、便所、湯沸室などがある。「わかぼん」は、集会所の玄関から空間的に連続しているホールを部分改修して設置されている。集会所内は上履き仕様であり、玄関でスリッパなどに履き替える玄関履き替えの形式となっている。なお、集会所の規模は約180m²^{注3}である。

The Actual usage of the Community Library "Wakabon" Installed in the Meeting Facilities in the UR Housing Complex One year after its Installation

Masahiro WAKATAKE and Naoyuki HIROTA

表2 集会所の室構成

屋内外の別	室・空間名称
屋内	玄関 ホール（「わかぼん」） 集会室 和室集会室 倉庫 物入 掃除用具入れ 湯沸かし室 男子便所 女子便所
屋外	玄関ポーチ テラス スロープ

3.2 「わかぼん」の構成

図1は、空間把握調査に基づいて「わかぼん」の平面ゾーンを示したものである。平面ゾーンの区分は、本棚、椅子、机、壁を利用した展示（以下、壁面展示）及び照明から行っている。

図1より、「わかぼん」は、集会室や和室集会室への動線の起点となるゾーン（玄関ホール）、子ども用の本が並べられているゾーン（子どもスペース）、漫画や一般・成人用の本を主に並べているゾーン（一般スペース）の3つのゾーンで構成されていることが分かる。なお「わかぼん」の規模は約40m²_{注3}である。

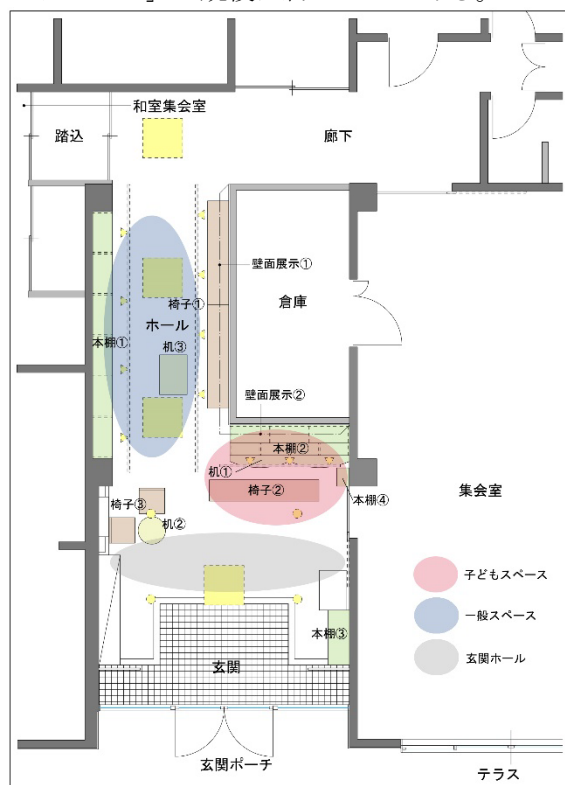


図1 「わかぼん」の平面構成

3.3 「わかぼん」の設え

「わかぼん」の平面ゾーンの区分に用いた本棚、椅子、机、壁面展示及び照明について、以下に詳述する。

①本棚 本棚は4か所に設置されている。

本棚①、②及び③は、改修の際に造作家具として新規に設置されたものである。

本棚①は一般・成人用として、本棚②は子ども用として造られている。本棚③は、改修計画時は下足棚として造られたが、「わかぼん」の

オープン以降は、本棚兼飾り棚として活用されている。棚の部分は本棚として、カウンター部分は、飾り用として利用されている。

本棚④は、集会所内にあり利用されていなかったカウンター兼用の棚で、これも「わかぼん」の設置に伴い本棚として活用している。

②椅子 椅子は3か所に設置されている。

椅子①は、改修の際に造作置き家具として新規に設置されたものである。大きさは、L1700×D350×H450で、2つ横並びで設置されている。形状は門型である。

椅子②は、現在の椅子①の場所に設置されていたもので、それを再利用したものである。

椅子③は、机②とのセットで2脚設置されている。集会所で活用されていたものを、そのまま「わかぼん」でも利用したものである。

③机 机は3か所に設置されている。

机①は、改修の際に造作家具として本棚②と一体的に造られたものである。

机②は、椅子③とのセットで設置されている。

机③は、小学校などにある学習用の机を、管理者用の受付事務などを行うためのものとして、開館時に倉庫から出して利用している。

④壁面展示 椅子①が設置されている壁（以下、壁面展示①）と子ども用の本棚②が設置されている壁（以下、壁面展示②）の2か所が該当し、改修の際に新規に計画されたものである。

壁面展示①および②のいずれも、仕上は鋼板製のホーローパネルとしており、マグネットが利用できる様になっている。また、壁面展示①には、ピクチャレールが設置されている。壁面展示②には、ピクチャレールの設置は無い。

⑤照明 照明は、改修前はベース照明のみであったが、改修後はLEDの埋込式ベース照明の設置に加えて、本棚①、壁面展示①及び本棚②兼壁面展示②に対する照明として、配ダク式のスポット照明が新たに設置されている。また、玄関にはダウンライトが新設されている。

4. 「わかぼん」の来館者の実態

4.1 来館者数と来館者の属性

図2は、「わかぼん」の来館者数とその属性について示したものである。なお、分析対象期間の来館者総数は406人、開館1日あたりの来館者数は5.8人/日である。

来館者の性別は、男性が113人で27.8%、女性が313人で72.2%と女性が7割以上を占めている。最も多い来館者の属性は、成人(女)の207人で割合は51.0%と半数以上となっている。次いで、成人(男)が68人で16.75%、小学生(女)が59人で14.53%と続いている。中高生(男)の利用のみ見られなかった。

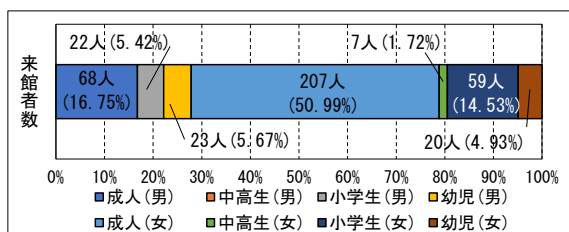


図2 来館者数及び来館者属性の割合

次に、月別の来館者属性の割合についてみる(図3)。なお、成人(男)及び成人(女)の月別利用者数の割合の平均は70.4%、成人(男)及び成人(女)以外の属性を合計した割合の平均は29.6%である。

月別の来館者属性の割合は、2023年2月を除き成人(男)及び成人(女)が半数以上の来館者数を占めている。一方、図3の赤枠で囲んでいる2022年11月、2023年2月及び2023年3月では、成人(男)及び成人(女)以外の属性を合計した割合がそれぞれ40%、54.1%、43.3%で4割以上となっている。これら3カ月は、いずれも小学生(女)の割合が高くなっている。

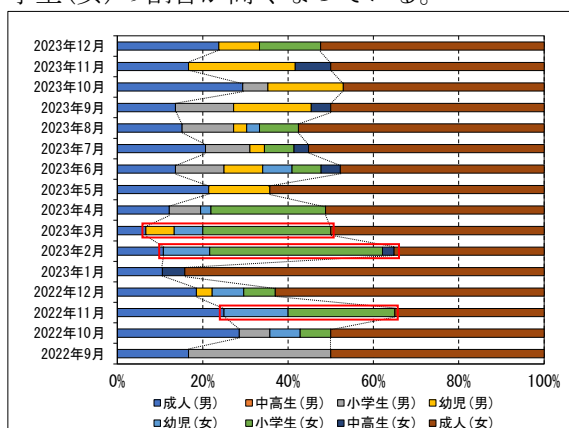


図3 月別にみる来館者属性の割合

4.2 来館者数に影響を与える要因の考察

図4は、来館者数と開館日数の関係について示したものである。なお、月平均の来館者数は25.4人(標準偏差11.47)、一月の開館平均日数は4.6日(1.36)である。

開館日数が増えると来館者数も増えることは自明といえる。そこで、その傾向が特に高く出る月平均の来館者数及び開館日数が標準偏差上限値より高い年月をみると、2023年4月がこれに該当し、この年月は来館者数及び開館日数のいずれも2番目に多くそれぞれ41人と6日となっている。4月という季節的なことが影響しているのでは考える。次に、その他の来館者数が多い年月をみる。来館者数が最も多いのが2023年6月で44人、3番目に多いのが2022年11月で40人であるが、この両日はいずれも開館日数は4日と平均開館日数を下回っている。2023年6月は、分析対象とした期間において唯

一イベントが開催^{注4}された日を含んでいる。つまり、イベント開催が来館者の増加に影響したことが考えられる。2022年11月は、開館してから2カ月が経ち、その間に瓦版の配布や名称の決定に関わる投票が実施されたことから住民の間で「わかぼん」の認知が進み、これが利用者数の増加に影響を与えたものと推察する。

一方、開館日数は多いが他の月と比べて来館者数が少ない年月をみると、2022年10月及び2023年10月であることが分かる。2022年10月については、開館後2カ月で、まだ住民への周知が行き届いていないことが原因と考えられる。2023年10月については、責任者である自治会長の長期不在が影響しているものと考えられ、これは同年12月末まで続き、その間の来館者数は他の月と比べると少ないことが分かる。キーパーソンの不在が来館者数に影響を与えたことが考えられる。

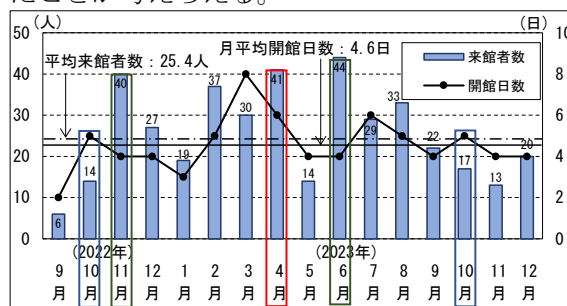


図4 月別の来館者数と開館日数の関係

5. 来館者の行動の実態

5.1 来館者の行動の種類と傾向

表3は、利用実態調査において明らかとなった、45人の来館者の行動の種類と行動数を示したものである。その結果、来館者の行動は12種類132の行動数を確認した。なお、1人当たりの行動数は1から6で、平均行動数は2.9である。

表3 来館者の行動の種類と行動数

「本」関連の行動数		「本」関連以外の行動数	
本を選ぶ	31	会話	35
本を読む	19	子どものお世話	3
本を借りる	15	勉強	1
本を返す	16	遊ぶ(一人)	1
本の提供	2	ウロウロする	3
読み聞かせ	3	鬼ごっこ	3
合計	86	合計	46

来館者の行動は、「本関連」と「本関連以外」のそれぞれ6種類に分けられる。「本関連」の行動数は「本を選ぶ」が31と最も多く、次いで「本を読む」「本を借りる」「本を返す」と続いている。「本関連以外」の行動数は「会話」が最も多く35である。来館者の行動の多くは「本関連」と「会話」であり、「会話」は「本関連」の行動をする時にもみられている。これは、本を媒介としてコミュニケーションが行われていることを示唆するものと考えられる。

5.2 属性別にみる行動の傾向

表4は、来館者の行動の種類別にその行動を行なった人数と割合について男女及び男女（成人）の属性別に示したものである。

表4より「本を選ぶ」「本を読む」の行動をとった来館者の割合は、男性の方が女性よりも多い傾向がみられる。「本を借りる」「本を返す」では、男性女性で違いはみられない。また「会話」については、女性の方が多い傾向にあることが分かる。「読み聞かせ」や「子どものお世話」は女性の方に、「勉強」「遊び（一人）」「ウロウロする」及び「鬼ごっこ」は、子ども世代でのみ見られた行動である。

表4 属性別にみる来館者の行動の傾向

本関連	合計		本関連以外	合計	
	割合%			割合%	
	男(成人)	女(成人)		男(成人)	女(成人)
	割合%	割合%		割合%	割合%
本を選ぶ	31		会話	35	
	68.9			77.8	
	14 (8)	17 (17)		12 (7)	23 (19)
	74 (42)	65 (65)		63 (37)	88 (73)
本を読む	19		子どものお世話	3	
	42.2			6.7	
	10 (3)	9 (9)		0 (0)	3 (3)
	53 (16)	35 (35)		0 (0)	12 (12)
本を借りる	15		勉強	1	
	33.3			2.2	
	6 (3)	9 (9)		0 (0)	1 (0)
	32 (16)	35 (35)		0 (0)	4 (0)
本を返す	16		遊ぶ(一人)	1	
	35.6			2.2	
	6 (6)	10 (10)		1 (0)	0 (0)
	32 (32)	38 (38)		5 (0)	0 (0)
本の提供	2		ウロウロする	3	
	4.4			6.7	
	1 (0)	1 (1)		3 (0)	0 (0)
	5 (0)	4 (4)		16 (0)	0 (0)
読み聞かせ	3		鬼ごっこ	3	
	6.7			6.7	
	0 (0)	3 (3)		0 (0)	3 (0)
	0 (0)	12 (12)		0 (0)	12 (0)

※合計：単位=人、男女(成人)：単位=人
※合計下の割合%は、実態調査時の利用者数45人に対する割合
※男女(成人)下の%は、45人の男女の内訳(男:19人、女:26人)に対する割合

5.3 属性別にみる滞在時間の傾向

表5に、来館者の属性別滞在時間を示す。なお、利用実態調査時において中高生（女）1名が「勉強」で240分滞在しており、この滞在時間は他の来館者に比べると突出して長いため、ここではこのデータを除いて考察する。その結果、時間利用実態調査時における来館者1人当たりの平均滞在時間は25.1分となる。

属性別にみると、男性の平均滞在時間は18.5分、女性は30.1分と女性の方が10分ほど長くなっている。これを成人のみでみても男性は17.2分、女性は28.7分でその傾向は変わらない。

子ども世代についてみると、幼児（男）は親と一緒に来館していることから、その滞在時間は親と同じになる。また、小学生（男）は「本の提供」を目的として1人で来館しているのに対して、小学生（女）3人は外遊びの延長で来館している。いずれの小学生も来館後は、読書や遊びをしながらその間に管理者などと「会話」

をし、30～40分程度の滞在で「わかぼん」を出ている。今後の追調査及び分析考察が必要であるが、「わかぼん」は運用を変えていくことで小学生や中高生にとっての居場所になる可能性があるものとする。

表5 属性別にみる来観者の滞在時間

		男性		女性	
全平均滞在時間		29.9分(25.1分)※			
平均滞在時間 (成人平均滞在時間)		18.5分 (17.2分)		38.2分(30.1分)※ (28.7分)	
成人	高齢者	5人	20.4分	10人	38.5分
	成人	5人	14.0分	12人	20.6分
子ども	中高生	0人	-	1人	240.0分
	小学生	1人	30.0分	3人	40.0分
	幼児	8人	18.8分	0人	-
合計人数		19人		26人	

※全平均滞在時間及び女性の平均滞在時間における（ ）の時間は、中高生の240分を除いた場合としている

6. まとめ

本報告では、UR香椎若葉団地集会所内に設置されたコミュニティライブラリー「わかぼん」の空間と設置後約1年間における利用実態について報告した。

今後の課題としては、滞在時間と行動の関係についての更なる分析考察を進めるほか、属性別の行動分析においても精緻な分析が必要と考えている。また、本報告では触れていない壁面展示や本棚の活用方法に着目することで、それらが住民の来館やコミュニティへの意識に与える影響を明らかとし、住民主体で持続的に「わかぼん」を運営していくための知見を得たいと考える。

さらに、来館者の「わかぼん」の利用や空間に対する印象、管理者の管理に対する思いなどを把握するために行ったアンケート結果を含めた報告を今後行う予定である。

謝辞

本報告の一部は、福岡女子大学国際文理学部環境科学科 保坂采子（現UR都市機構九州支社住宅経営部ウェルフェア推進課）の卒業論文（2023年度）が基になっている。ここに記して謝意を表します。

注

- 図面は、1階平面詳細図兼天井図（改修前・後）、展開図（改修前・後）、家具図(1)及び(2)の3種類である。
- 管理用ノートとして、来館者数とその属性、本の貸し出しについて記録しているノート。
- UR九州支社から提供いただいた情報による。
- 「わかぼん」の名称決定後から作成に取り掛かった福岡女子大学の学生デザインによる館銘板のお披露目と七夕まつりが行なわれた。

参考文献

- 日本建築学会編「まちの居場所 ささえる/まもる/そだてる/つなぐ」鹿島出版会、pp.116-128、2019.9
- 日本建築学会環境行動研究小委員会シンポジウム「本がつなぐ未来-本にまつわる人・コト・モノの環境行動学-」主題解説資料、日本建築学会、2023.1.13